

13ひろば編集委員が訪問

# 世田谷清掃工場と資源循環センター「リセタ」

普段何気なく出している家庭ごみがどのように処理されていくのかを間近で見学し、  
ごみ分別の重要性を改めて実感!!



## 世田谷清掃工場

砧公園横にある世田谷清掃工場では、可燃ごみの処理が行われています(23区内には建替中を含め22の清掃工場があります)。現在の施設は、令和8年度から建替工事が始まり、令和15年度に完成予定です。その間に排出した可燃ごみは、他の清掃工場に振り分けられて処理されます。

### 施設を見学してみて…

正しく分別が行われているかどうかで、工場全体の作業効率や安全性に大きな影響を与えることがわかりました。下の例のように、分別が正しく行われず、可燃ごみとして捨ててしまうと、リサイクルできる資源が無駄になるだけでなく、機械の損傷や作業員さんの危険につながる場合があります。



清掃工場に持ち込まれた不燃ごみ

### 【普通ごみに混入すると危険なもの】

- ①充電式電池：清掃工場やごみ収集車が火事になる恐れがある  
※世田谷区では令和7年10月より充電式電池を不燃ごみとして収集
- ②蛍光灯等の水銀：清掃工場が止まる恐れがある
- ③針金のような金属：焼却炉の故障の原因となる

正しく分別して  
不燃ごみへ!

私たちの日々の生活を支えている清掃工場の稼働を止めないためにも、一人一人が正しい分別方法でごみを出すことが大切だと改めて感じました。

## 資源循環センター「リセタ」

世田谷清掃工場に隣接する「リセタ」は、区内で資源ごみとして出されたガラスびんを選別し、資源化する施設です。

リサイクルのカギは家庭でできる「ひと手間」が重要だと思いました。びんの大きさや色識別は機械化されていますが、リターナブルびんの選別、リサイクルに適さないものの選別、キャップを取り外す作業は一つ一つ手作業でされています。



選別作業の様子

捨てる前の「ひと手間」で、  
リサイクル効率上がるよ!

- ①びんのキャップはなるべく取る(プラスチック製は可燃ごみ、金属製は不燃ごみ)
- ②軽く洗う ③リターナブルびんはお店へ返却する
- ④回収コンテナには袋などに入れず横にして入れる ⑤陶器・耐熱皿・割れたびんは不燃ごみに分別する

どちらの施設でも、リデュース(ごみを減らす)、リユース(繰り返し使う)、リサイクル(再資源化)の3Rという言葉を用いました。今回の施設見学を通じて、3Rを一人一人が実践することが、地域の環境を守り、次世代により良い環境を引き継ぐことにつながると改めて実感しました。

# 駒沢の人とまちをつなぐ「駒沢こもれびプロジェクト」

駒沢こもれびプロジェクトは、駒沢大学駅周辺を拠点に、「もっと駒沢を知り、関わり、好きになる」きっかけをつくる地域プロジェクトです。主な活動は3つ。ウェブマガジン『今日の駒沢』の運営、市民活動やイベントの企画・実施、そして駒沢大学駅前に誕生した商業施設「駒沢パーククォーター」との連携を行っています。



## まちに飛び出す「こもれび記者」!

特徴的な取り組みの一つが「こもれび記者」の活動。小学生や大学生、大人が記者となり、まちに出て地域の人やお店の活動取材します。小学生記者企画では子どもたちが大人と対話し、地域と関わる経験を重ねながら、その魅力を自分の言葉で伝えていくことを大切にしています。



撮影：宗田育子

## 駒沢の新しいランドマーク「駒沢パーククォーター」

令和7年11月11日に開業した駒沢パーククォーターは、全17店舗が集まる駅前の新しい拠点。多種多様な植栽が広がり、買い物や食事だけでなく、地域の人が一息つける場所を目指しています。

公園、大学、商業施設、そして多様な市民活動が重なり合う駒沢。駒沢こもれびプロジェクトは、人と人のつながりをきっかけに、地域のみなさんと一緒にワクワクするまちの風景を育てていきます!

写真：駒沢こもれびプロジェクト 石原 慧理

## 駒大コーナー



## 「国際福祉機器展」

を見学してきました!

駒澤大学川上ゼミでは、地域福祉を多面的に学ぶことを目的として、福祉機関の見学や福祉に関するイベントへの参加を行っています。

昨年には、江東区にある東京国際展示場「ビッグサイト」で開催された、「国際福祉機器展」へ見学に伺いました。

会場では、最新の車椅子や車椅子対応自動車、バリアフリー住宅など、幅広い福祉機器が展示されていました。実際に車椅子の操作を体験することで、操作の難しさや利用者の視点に立つことの大切さを学ぶことができました。

また、最新の車椅子には、長時間座っても疲れにくい設計や、日常生活の質を高めるための

さまざまな工夫が施されており、福祉機器の進化を実感する機会となりました。

川上ゼミは駒澤大学の「ゼミ社会連携プロジェクト(まちづくり・地域づくり部門)」に採択され、大学からの本格的な支援を受けながら活動を進めています。

今後も、ボランティア活動や見学などを通して、地域福祉に関する学びをより一層深めていきます。



見学時の写真